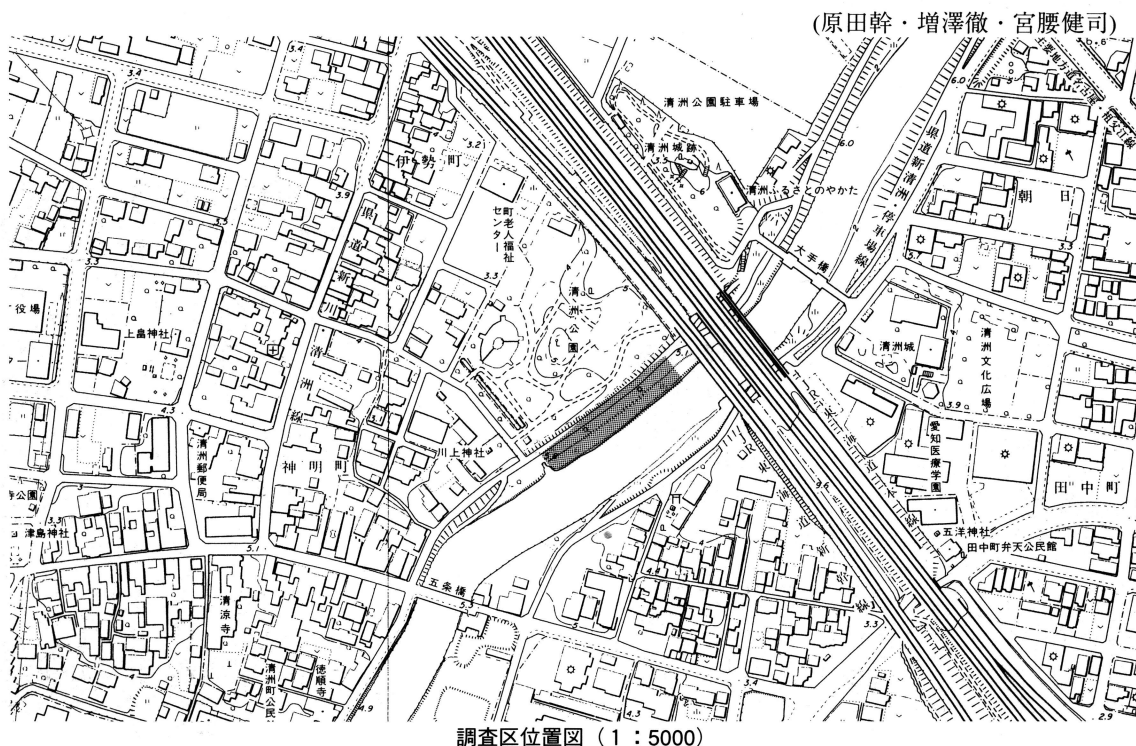


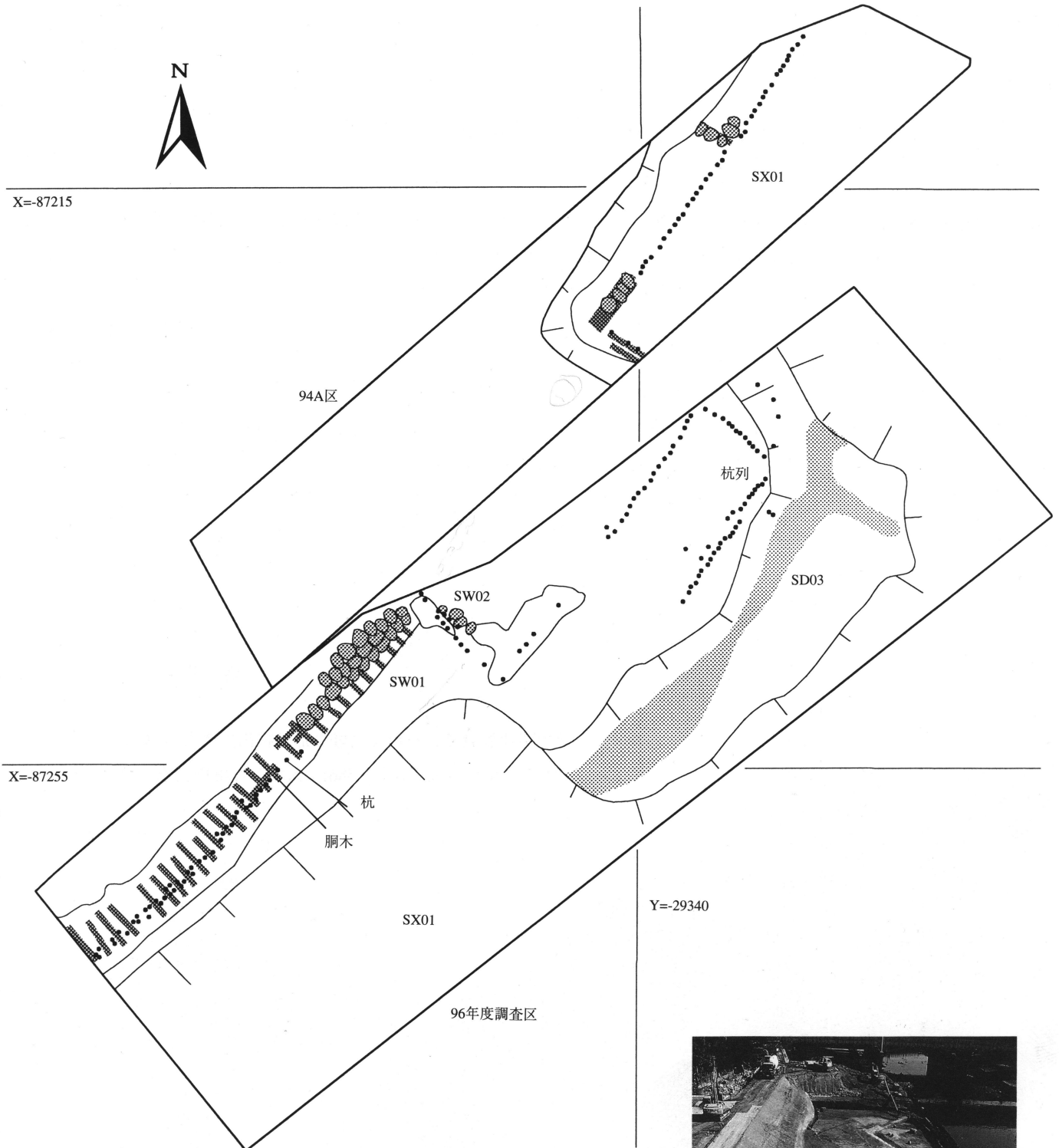
きよすじょうかまち
清洲城下町遺跡

調査の経緯 清洲城下町遺跡は、西春日井郡清洲町に所在する。本遺跡は濃尾平野の中央部を南流する五条川中流域に形成された自然堤防とその後背湿地上に立地する古代から近世にかけての複合遺跡である。発掘調査は昭和59年から継続して行われており、今年度は五条川の河川改修に伴う事前調査として、平成8年12月から平成9年3月にかけて実施した。調査面積は、約2000㎡である。

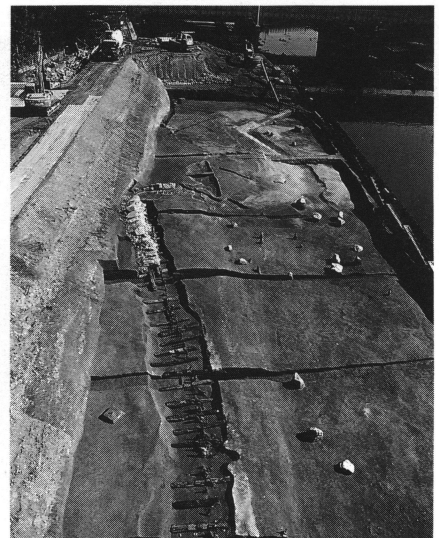
調査の概要 今年度調査区は、五条川右岸の清洲公園に隣接する堤防道路及び河川敷に位置する。この地点は清須城本丸推定地に当たり、堀と石垣を検出した94 A区に南接する。本調査区では、本丸東側に築かれた石垣やテラス状遺構、杭列等の遺構が検出された。石垣は北東から南西に走るSW01とこれに直行するSW02がある。SW01は長さ約11m、高さ約1.8m（基底石を含む）で石組が残存し、長さ約20mの範囲で胴木・杭列等の下部施設を検出した。SW02は石組の残存状況は良くないが基底石の抜き取り痕とみられる溝状の掘り込みを検出しており、SW01に対しL状に張り出す形状で巡っていたと推定される。SW02の東及び南側は比較的広いテラスになっている。出土遺物の大半は堀内から出土した大量の瓦で、軒瓦、平瓦、丸瓦、飾瓦、鯨瓦等種類も豊富である。軒瓦、飾瓦、鯨瓦には金箔瓦もみられる。

本調査区で検出した遺構は堀及びその関連施設で、石垣を良好な形で検出できたのは大きな成果である。この石垣は94A区の調査成果から天正14年(1586)に入場した織田信雄の時期に築造されたと推定されており、当期の石垣築造技術を知る上でも興味深い資料である。堀の形状も張り出し部状の石垣やテラス状遺構の存在など決して単純なものではなく、94A区で検出された堀との関連を含め、城郭構造の復元が検討課題となる。





石垣 (SW01)



調査区全景

主要遺構配置図 (1:400)